アフリカ・マラウイ剣道旅行記２０１３夏

（中川　総　平成３年度３次隊青年海外協力隊ＯＢ）

※剣道に関することのみに焦点をあてています。大変申し訳ありません。

この夏、マラウイのブランタイヤに滞在期間三泊四日で里帰りしました。

今回の目的は　①私が所属するＮＧＯである日本マラウイ協会のウォームハートプロジェクト（佐藤隊員及び和泉澤隊員が申請してくれました）を使って今回完成したユースセンター体育館道場の木の床を視察し、その道場で彼らと稽古をする　②９月１日にマラウイ剣道協会がマラウイ国内初の平成25年度外務大臣表彰を受賞することになり（マラウイにおける20年以上の剣道の普及が認められたようです）、その受賞式典、兼、道場引き渡しセレモニーに出席する　③日本の皆様から頂いた剣道用品、頂いた募金を使って彼らからのリクエストを購入しプレゼントする　④マラウイ剣士たち、そしてサポートして下さっている協力隊員の皆様に会ってお礼を言う　　が主でした。

８月３０日(金)午後、ブランタイヤのチレカ空港着後、荷物を宿泊先に降ろし、夕方から１時間程度、２１年前に子供達と剣道の稽古を始めた思い出の場所（病院裏の空き地）に集合し、日が暮れるまで竹刀のみを使った昔懐かしい稽古を当時子供だった生徒、彼らから剣道を習っている生徒、そしてマラウイ剣道をサポートして下さっている青年海外協力隊員達と共に楽しみました。

８月３１日(土)、日本から手荷物として持ち込んだ４０kg超えの荷物を道場に並べ、皆にお披露目し、その中でも彼らからのリクエストの一つであった垂ネーム１０名分（国際大会でも使えるような仕様のもの）を手渡しでプレゼントしました。彼らの喜びは言うまでもありません。

稽古開始前にスピーチを求められたので、英語と現地語をごちゃまぜにして、簡単な自己紹介，２１年前にオースティン・ソンバ氏ならびに数名のセンパイ剣士が子供だった時に一緒に剣道をやっていたこと，当時剣道を教えたかもしれないけれど皆から本当に沢山のことを教えられたこと，あの生徒達が死なずに立派に成長し、仕事に就き、結婚し、家族を養い、そして今でも剣道を続けてくれている…私は本当に幸せな人間であること，などを話しました。

今回新しくなった剣道場の木の床は日本のものとは大きく異なりました。コンクリートの床の上に厚さ１～２センチの緩衝材を入れ、その上に木の板を張り付けたというものでした。実際、素足の感触は意外なことにとても良好で、踏み込む度に床が波打つが稽古は

しやすいという不思議な道場でした。あとは、この床が何年持ってくれるかが心配ですが、今後、彼らの手助けとなるのは明らかです。日本マラウイ協会役員の一人として関与出来たことをとても嬉しく思います。

この日の午前中は初心者組と経験者組に別れての稽古で、初心者組は剣道２段の杉田かなえ隊員が面倒を見てくれていて、私は経験者の練習メニューに参加し、気づいた点があれば助言するという形式でした。代表者であるオースティン・ソンバ氏（３段）はとても素直な剣風であると感じられました。

午後は、翌日の昇級審査会のための練習を皆で行いました。昇級審査会は南アフリカの先生から承認を一応得たらしく、お金が無く南アフリカまで審査を受けに行けない生徒達のモチベーションを下げないよう、剣道８級～２級まで、その生徒の技術に応じて級を与えるという（※マラウイ国内でのみ通用する）もので、マラウイ剣道協会初の試みです。日本の昇級審査会とは大きく内容も異なり、南アフリカ方式を大いに参考として、審査内容（課題）を構築してありました。私と有段者の協力隊員、そしてマラウイの有段者が一項目ずつ手本を見せ、皆でおさらいし、次に進むという行為を８級から２級まで行い、その日の稽古は終了となりました。

また、同日、奇しくもマラウイ剣道サポーターＯＢの一人である菅野ＯＢから竹刀２０本の寄贈がありました。その一部をリロングウェ警察の稽古で使用するとのことです。

９月１日(日)、マラウイ剣道協会にとって、とても歴史に残る一日となりました。

早朝から大勢の協力隊員のサポートを頂きました。皆様には感謝の言葉しか見つかりません。午前中、１４名の剣士達を対象に昇級審査会を行いました。審査員は中川(４段)、杉田かなえ隊員（２段）、オースティン・ソンバ氏（３段）が務めました。マラウイの有段者が司会進行及び手本を見せ、全員を対象に８級から審査をし、各級の課題が終わる毎に三人で相談し、これ以上の級の審査を受けられるレベルでない生徒を発表し、外れてもらうという、まるでミュージカルのオーデションのような形式となってしまいました。

審査会の終盤で在マラウイ日本大使館の寒川大使と秘書の浅野様がお見えになり、審査会を少しご覧になりました。審査会終了後、剣道のデモンストレーションを大使の前で実演し、平成２５年度外務大臣表彰授賞式を行いました。

当日、不幸なことに道場のすぐ近くでキリスト教会主催のイベントがあり、大音量の音楽や歌、トークショーが一日中行われていて、そのノイズが道場内にも流れ込み肉声でスピーチをする我々にとっては折角の式典を邪魔された気分でした。これもマラウイ流と言ってしまえばそれまでですが…。

寒川大使から剣道は１９９２年に協力隊員であった中川からマラウイに紹介されたこと、２０年以上日本の武道である剣道をマラウイ人が普及し、日本人との文化交流に尽力されたことに関する労い及び賞賛のスピーチを頂きました。

マラウイ剣道協会代表者のオースティン・ソンバ氏も堂々と、剣道をする者の心得について、そして今後も日本人ボランティア達との交流を、剣道を通じて続けていきたい旨のコメントを発言していました。片隅で聴いていた私は本当に感無量でした。授与式終了後、皆で記念撮影を行いました。この写真は私にとっても宝物になる記念の一枚です。

大使がお帰りになった後、昼の休憩をとり、午後からは今月任期終了で帰国される平成２３年度２次隊のフェアウェルを兼ねた壮行試合を行いました。日本人隊員５名＋私ＶＳマラウイ剣士６名で団体戦を行いました。審判をマラウイ側の一人制としてしまったこともあり、それは明らかに誤審だろうという判定もありましたが、結論として、マラウイ剣士側の勝利で終わりました。でも、試合後は笑顔で双方、検討を称えあいました。

任期終了して帰国する和泉澤隊員からの心温まるスピーチを聴いていて、こちらが号泣する始末でした。私を含め、マラウイ剣道協会にとって、とても内容の濃い一日となりました。関与して頂いた皆様には本当に感謝です。

９月２日（月）、午前中にオースティン・ソンバ氏、杉田かなえ隊員と共にマラウイスポーツ評議会の代表者であるジャーナ氏を表敬訪問し、昨日表彰を受けた件及び今後もマラウイ剣道協会のことを宜しくお願いしますと挨拶をさせて頂きました。ジャーナ氏からは木の床の資金援助について日本マラウイ協会に対する感謝のコメントを頂きました。また、剣道隊員（あるいは剣道が出来る体育隊員）の派遣の可能性をあれこれと話し合ったりしました。

午後、道場に向かい、ノートパソコンを使って、アクション映画および少年剣道日本一の道場の稽古風景　のＤＶＤを子供達を中心に皆で見て楽しみました。

非常に恥ずかしい話なのですが、私の滞在中、大人のマラウイ剣士たちから「〇〇氏は良くない」など、個人的にいろいろ不満などを私が数回に及び聴いてあげることになり、それらの事実確認を第三者に尋ねて、一体、誰の言い分に正当性があるのかを判断していたりしました。詳細は割愛しますが、段持ちだけど日頃の練習には参加せず、大きなイベント当日のみ参加し、偉そうにふるまっている某剣士に対しては「心を入れ替え、不平を言わず、まず通常稽古に参加し続けることから始めないと、誰もお前の事をセンパイとして認めないぞ！　お前なら出来るのだから、頼むから皆の良いセンパイであってくれ！」と説教なのか懇願なのか、よく分からないお願いをしたりしました。

９月３日（火）、マラウイを去る日、私はマラウイ協会で使用する民芸品の買い物に出かけ、その間、大人のマラウイ剣士たちは別の場所でミーティングを行なったそうです。

オースティン・ソンバのみに負担をかけることなく、オースティン自身も皆が協力して

くれないからと自分一人で頑張らないで、他の大人剣士達にも相談し合い、情報を共有して協会をより良いものにするための話し合いを彼らで行い、その結果を空港まで自分に報告しに来てくれるということになっていました。私からは当日の朝、皆にこうあって欲しいというリクエストの手紙を３ページ分書き記しました。約束の時間が過ぎ、チレカ空港からの出国審査の時間ぎりぎりで彼らが空港に現れたため、詳細については聴く時間が取れず「問題は解決したのか？　皆の距離はちゃんと縮まったのか？」を確認し、手紙を皆に渡してマラウイを旅立ちました。正直、彼らにやってあげたかったことの半分も出来ていないかも知れません…。

和泉澤隊員、杉田かなえ隊員をはじめとする沢山の剣道サポーター隊員に恵まれ、今は追い風の中、彼らは剣道を続けていました。良い話ばかりでなく問題も山積みでしたが、マラウイ剣士のために今後も日本から出来る範囲の協力を細く長く続けて行きたいと改めて感じました。　滞在中お世話になった皆様、本当に有難うございました。

以上

平成２５年９月１１日

中川　総

・・・